

Welcome & Opening, Keynote speech

【セッション全体の概要】

- ・ Welcome & Opening に続き、基調講演 1 件があった。

Welcome & Opening

- ・ 歓迎の挨拶に続いて、当該会議の概要について紹介があった。23 ヶ国から 246 名の出席者があった（フランスからの出席者数が突出しており、約 90 名）。3 件の基調講演、59 件の口頭発表、66 件のポスター発表があり、Radiolysis workshop との併催であることが説明された。

Keynote speech

- ・ Valérie Faudon (DG Sfen)から、"A nuclear revival: the signs"と題した基調講演がなされた。エネルギー安全保障や Net Zero シナリオ等の観点からは、原子力発電の重要性が今後ますます増大することが強調された。これに対応するトレンドとしては、IAEA によると全世界では 70 種類に及ぶ SMR / AMR のコンセプトが提案されていること、アメリカでは既設原子炉の 80 年運転に向けた動きが本格化していること、などが挙げられた。フランスに関しては、4 つの大きなプロジェクト（既設原子炉の運転期間延長、6 基の EPR を新規に建設、EDF が進める SMR 開発プロジェクト「NUWARD」、政府主導の AMR 開発プロジェクト）が推進されていることが説明された。一方で、2040 年代前半に予想される、既設原子力発電プラントの相当数が寿命を迎えることに伴う原子力発電量の急落"cliff effect"への備えが重要であることも強調された。

【作成者氏名】 阿部博志（東北大）